

---

11番 前田正勝議員

議長（大西慶治君） 次に、通告順、6番 前田正勝議員の一般質問を行いますので、前田正勝議員は質問席へ移動してください。それでは通告順6番 前田正勝議員の発言を許可します。前田正勝議員。

（11番 前田正勝議員 登壇）

11番（前田正勝君） 本日は町長に2項目ほど伺いたいと思います。

まず県道高奈上三瀬線についてですが、県の道路整備戦略で期間内着手に位置づけされていますが、高奈橋については少し具体的な話があると聞いています。長ケ高奈間の拡幅については、前向きな話は今の現況では聞かれません。この路線は通学・通勤また生活道路として利用される重要路線と認識を、私はしております。過去に随分長い時間がかかっているんですが、早急な改良を望むところですが、現状とこの路線についての町長の所見を伺いたいと思います。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） それでは、県道高奈上三瀬線の整備につきまして、お答えをいたします。この高奈地内の国道42号から長ケの集落を経て上三瀬地内の国道42号へ接続する、延長で7350メートルの路線でございますが、平成15年に三重県県土整備部で策定されました新道路整備戦略で、本路線は事業延長3.6キロについて、平成15年度から平成29年度の期間内着手という位置づけがされております。整備状況につきましては、現在のところ長年の懸案事項でございました、高奈橋の架け替えに向けて、平成20年度に事業費500万円で橋りょう前後の道路の予備設計が完了しまして、平成21年度に事業費1000万円で予定されておりました路線測量、それから道路詳細設計、地質調査、橋りょう予備設計の一部が、平成22年度に繰り越しをされまして、実施される予定となっております。また本年度はこれに加えまして、事業費1500万円で用地測量、用地買収、橋りょう予備設計、地質調査を行うことと、平成23年度以降、橋りょう本体工事と取りつけ道路及び現在の橋梁

の撤去等の工事がございまして、順調に進めても高奈橋の完成は、4、5年先になる見込みでございます。

町といたしましても、本路線は通勤・通学等の重要な路線でありますことから、これまでも路線全体の早期整備について、県に要望してきたところでございますが、今後も現在進められております高奈橋の架けかえの早期完成と、引き続き未改良区間の整備に向けまして、県に強く働きかけてまいりますので、ご理解をお願いしまして答弁とさせていただきます。

議長（大西慶治君） 前田正勝議員。

11番（前田正勝君） この路線の拡幅については、過去において一定あるところまでは整備されております。その先は事業実施が一時頓挫してしまったということであります。聞くところによりますと、用地について地権者の方の理解が得られなかったというふうに聞いておりますが、この間、10数年間多分たっております。今でも地元の人、特に長ケの人たちは、何とかならないのかという話を聞くんです。多気や明和のほうへいくと、2年ぐらいたっていくと、そこら辺は本当にびっくりするような道路がついて整備をされておるんですが、これは汗をかいてしなければ、向こうからというのか、県のほうからというのか、やってくれるのかなと思うときがあります。

行政のほうも汗をかいておられることと思いますが、改めて伺いたいんですが、この路線について町長は住民の人に、重要な道であると認識を持たれておるとお考えですか。私は町長選挙で選ばれて、まだ1年もたっていないんですが、任期中に何とか絵のかけるところまで、努力をされてもって行ってほしいと思うんですが、その点を踏まえて町長の所見を伺いたいと思います。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） いっとき用地の問題がございまして、少し空白期間ができたこと、こういうことございまして、そこら辺も一応進めながら、このように事業が動き出してきておるといようなことでもございまして、順次その点については進めていかれるものと思います。ただその折には少しでも早く

完成にむけて期間短縮というようなことで、取り組んでいかねばならないと、そういう認識でございますので、よろしく願いをいたしたいというふうに思います。

長ケの人たちは再三桃坂の話とか、この高奈橋あるいはその周辺というようなことで、再三ご要望もいただいているところでございますので、十分認識はいたしておるところでございます。ただこういった道路事情はこの大台町地域の中でもかなり多くございますということで、以前からもいろいろなところから要望もいただいているところでございますが、国道422号もそうですし、それから栃原のほうもそうですし、いろいろなところで早く整備をというふうなことで、それが進んでいるところもございますが、全然未着手のところもございます。そういうことで県の道路戦略の中で早く位置づけをというふうなことでは言っておりますけれども、私も今日はちょっとそこら辺を考えておりました、赤信号のとこ突っ込むようなことになりまして、ポーッとしておったんですが、これ気をつけないかなと、腹たってきてかなんのですわ。

ラジオを聞いてまして、いろいろなところで道路が進みにくいということで、1.5車線にというようなことを言っていました。早く私は村長になったころから、2車線で立派な歩道をつけやんでもええんや、1.5車線で何とか大型自動車に対向できるような道路さえつくってくれと、それでええんやというふうなことで、再三申し上げてはきておるんです。それでも県のほうとしては、BバイCとか、あるいは優先すべきところがたくさんあって、そちらをやらぬかんというような形で、渋滞なんかすごいですね、北勢のほうへいくとそういうようなところに、やっぱり重点を置かなければならぬ。あるいはこういった高速道路で重点的にそちらへ投資をしてかないかんというふうなこともあって、地方の道路はなかなか後回しにされてきておるといって、こういう実態があるわけですし、そこら辺だったら、いつまでたっても、もうできやん話やねえかと、BバイCでいうから、人口はどんどん減つとる中で、経済性、効率性から言われたから全然アウトの世界ですね。そんなようなとこずっとそうしたら

放っておくんかいというふうなことで、今度知事とのトップ会議があるんですけども、そんなときに知事はどうそこら辺を考えておるんやというような話を言わないかなというふうに思とるんですわ。

そういうようなことで腹たってきましたな、そうしたら赤信号へ突っ込んでいって、これあかんと思て急ブレーキを踏んで、どうにか止まりましたけども、そのぐらい腹たってきたようなことです。そんなんでなかなか重点的に戦略として取り上げられにくい路線もございますし、またそこに付いたとしましても、ただらしておって進みにくい。まさに近くの御棟・明豆間でも、十数年たっておるんです、手をつけてから十数年。早う卒業させやないかんやないかということ言っておるんですけども、今だに一方通行の信号で通っておるようなことなんですね。そういうような状態でございます。

しかし県としても全体をみながらというようなことの中でやっておるというようなことなんですけど、本当にいろいろなところで、そのように不都合なところがあるわけなんですけど、鋭意これは進めていかならん。お陰とこの高奈橋は手がついてますんで、何とか進みますけども、その期間を早めるというふうな努力と、それから未着手の部分もやっていかないかん。柳原橋のともそうですね。あれでも長く子どもたちが通学するのも不便がかかっておるという、危険性も伴っておるという、そういう状況になっておる。そういったところは一刻も早く脱却していかないかんという形で、今後も努力はしていきたいというふうに思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。

議長（大西慶治君） 前田正勝議員。

11番（前田正勝君） この新道路整備戦略を見ておりますと、松阪所管内で随分あるんです。38あって、なぜかこの路線が新規になっておるんです。この評価点とか、こう書いてあるんですけど、評価点は30ってどういうことなんか。後で担当課に聞いてみるんですけど、これはネットを開くととにかく県に財政難でという文字が出てくるんです。もうちょっと先ほど言われたように、評価点とか見ると、それこそいつまでたっても、ちょっと手をつけて、本当に

わずか手つけてどんどん先ほど、私らもひょっとしたらこの道つくときにはおらんかもわからんと、私思っているんですよ、本当に。何十年、今まで何十年ってかかっているんです。長ケの人らはもう諦めておるんですよ、半分。我々も去年でしたか、いわゆる多気郡の地議連のブロック会議で、これを取り上げて建設事務所つれて、ずっと要望点こう上げて回ったんです。やっぱり声を上げてかんとあかんのかなということなんです。黙って放っておいたら、そんなもんいつまでたっても、向こうからは絶対やってくれんって私は思っているんです。町長も先ほど言われたけども、とにかく副町長も頑張って、県のほうへもう少々きつい言うぐらいに言わんとあかんと思うんですよ。まともに言うとしたら、それはなかなか良い方向へいかんと思うんですね。そこら辺改めてもう一回、信念と言いますか、それを聞かせてください。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） 評価点の内容については、また担当課のほうで聞いていただきたいと思うわけなんです、合併時のおりもやはり合併したところについては、その連結する道路については早期の整備というようなことで、いい話はその当時はありました。しかしある意味、その時間が過ぎると、それが一応の計画としてはあるんだろうと思いますが、そこら辺が実施になかなか結びついていないという、そういう実態であろうというふうに思います。そこら辺も申し上げながら、早期の整備について強く本当に言わないかなというふうに思っておるところでございます。本当にあっちこちで、これだけの360平方キロの面積を有している中で、本当に町民の皆さん、そこで生活をしているわけなんですけれども、なかなかまだまだその危険箇所が多いというふうなこともございます。

そしてまた一つにはやはり事業期間が長くなっていくというのは、やはり所有者のご理解もいただけない部分もあって、非常に進みにくい部分もあるんです。以前ですね、もう要望は出して県もやるかなとなって、県はその気になって予算がついて、さあやるというたときに、今度は所有者の同意が得られない

というようなことも、そこでしばらくの間、頓挫しておるといふ、あの八知山トンネルなんかもそうなんです、そういったような部分もあって、ほかの路線もたくさんあるんですけども、そういったような部分がなかなかご理解が得られにくいということがあって、そこら辺がなかなか事業を思ったようにどんどん伸びていないという、そういう側面もあると思うんですが、それはそれとして努力をしていかなければなりませんので、順次大きな声も出しながらやっていかないかなのかなと思います。大きな声を出したらしてくれるのなら、いっくらでも出しますけども、そういうもんでもないというふうに思いますが、ひとつよろしくお願い申し上げたいと思います。

議長（大西慶治君） 前田正勝議員。

11番（前田正勝君） 次に、大台町の林業について、少し伺いたいと思います。我が町では林業については、特に宮川地域のほうでは、過去の歴史の上ではまさに重要な産業で、栄華をもたらした時代もあったことを、私小さいときから覚えております。しかし今見るとき、大変厳しいものがあると痛感いたしております。将来を見据えて今さまざまな取り組みがなされていることについては、私なりに理解をいたしておりますが、この町の林業について、町長はまだまだ基幹産業と位置づけされ、活性化を図っていかれるのか。所見を伺いたいと思います。

合わせて大台町で実施している国県そして町単独でさまざま展開されておりますが、この事業について少し説明を願いたい。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） それでは2問目の町の林業についてお答えをいたします。大台町の森林面積につきましては、ご承知のとおり総面積の93%に当たります3万3817ヘクタールを占めておりまして、その森林に占める人工林率は約57%となっております。我が国におきます平均的な人工林率が41%というようなことで、それよりも高い人工林を有しているところであります。これは宮川流域の源流部に位置する大台町におきまして、林業が江戸時代以降

の基幹産業であり続けたことに由来していると言っても過言ではないと思います。

またこうした林業を中心とした産業構造になりまして、伊勢神宮社殿の建て替えのための木材を生産する、いわゆる御杣山等、地域における文化の形成も森林林業と密接に係わってまいりました。しかしながら、戦後造林されました人工林は、近年の木材価格の低迷によりまして、木材生産量が低下するとともに、山離れが進み山林労務者が激減をしておりますことも、大きな問題となっているところであります。そうした中で大台町では林業後継者育成を目的に、平成5年に第3セクターとして、株式会社フォレストファイターズ及び株式会社のエム・エス・ピーを設立しまして、森林林業の活性化に取り組んできたことはご承知のとおりでございます。

先にも述べさせていただきましたが、人工林率が国の平均値よりも高く、また総面積の93%を森林が占める当町におきまして、森林資源の利活用は大変重要であり、基幹産業としての位置づけにより地域の活性化を図ってまいりたいと思っております。また森林は地球温暖化の防止対策等の環境面においても、非常に重要であると考えておりまして、町有林で現在取り組んでおります1990年以降、継続的に間伐、植林している森林の二酸化炭素CO<sub>2</sub>の吸収量を温室効果ガスを相殺したい企業などへ売却し、得た利益を今後の森林整備や地域振興の原資にする仕組みといたしまして、オフセットクレジット、いわゆるジェイバー制度の利用を図ってまいりたいと考えております。

またもう一点の国県の森林整備事業についてでございますが、三重県では県民しあわせプラン第2次戦略計画で重点事業に森林再生「三重の森林づくり」を位置づけし、平成22年度は第2次戦略計画の最終年度として、計画目標の達成を目指し、緑の循環の拡大やがんばる三重の林業創設事業を重点施策としております。現在の方向性といたしましては、国県の施策として集約化による団地化を推進し、作業道等の整備を図り、高性能林業機械による搬出コストを抑えた利用間伐を促進することとなっており、当町でも今年度予算において、

H型集材等、新しい搬出方法を検討していく予定となっております。

それは各種の事業につきまして説明をさせていただきます。まず1点目の森林の持つ公益的機能を発揮させる事業についてでございますが、一つ目に森林環境創造事業がございます。事業概要といたしまして、環境林に区分された森林で20年間の森林管理委託を受け、環境林整備計画を樹立している森林が対象となって、間伐、下刈り、広葉樹の植栽、管理歩道開設等を実施する事業でございます。

二つ目に環境林の整備治山事業がございます。事業概要といたしまして、居住地などの上流部に位置する保安林等において、災害に強い森づくりのため本数調整伐を実施する事業でございます。

三つ目には造林事業がございまして、事業概要といたしましては森林の有する多面的機能の維持、増進を図ることを目的とした植栽、下刈り、除間伐、枝打ちなどの施業を実施する事業でございます。

四つ目には高齢林の整備間伐促進事業でございます。8齢級以上の杉や檜などの人工林において、間伐を実施する事業でございます。

五つ目に治山事業がございます。荒廃の進んだ保安林の機能を向上させるため、本数調整伐等による森林整備を行うとともに、管理道を開設し保安林の持続的な管理体制を推進をいたします。

六つ目に県単治山事業がございます。五つ目の治山事業は国補事業でございますが、その採択基準に満たない小規模な荒廃地の森林整備を県費で実施する事業でございます。五つ目、六つ目の治山事業と名のつく事業につきましては、保安林指定や砂防指定地等の制限林での実施となっております。他の事業につきましては造林、いわゆる環境林、生産林に造林する、その区分によりまして、実施をされることとなっております。

それから二点目に県産材の利用を進める取り組みについてでございます。がんばる三重の林業創設事業がございます。木材価格の長期的な低迷から林業採算性の悪化により、林業経営意欲が低下し、生産活動が停滞するとともに、適



正に管理されない森林が増加をしております。一方で県産材の需給量は減少が続く中、近年の木材需給が合板用材やチップ用材などのダイロット化へ変化していることから、ダイロット事業に対応する安定した生産供給体制の整備が急務となっております。このようなことから県産材の増量を図るとともに、柱材に加え合板用材がチップ用材などに多段階に利用する木材のかつけどりを進めるため、森林の団地化、施業の集約化により作業路の整備や高性能林業機械の導入を進め、低コスト化に取り組み安定的な生産供給体制を整備する事業でございます。

それから三点目に地域産業の活性化と雇用機会の創出を進める取り組みについてでございます。森林整備、過疎化、林業再生基金事業でございますが、間伐等により森林整備の推進、間伐等の森林資源を活用した林業の推進及び木材産業等の地域産業の再生を図るため認定林業事業体や事業者等が行う間伐路網整備や木材加工流通施設整備等に支援を受けることができる事業でございます。

次にハンブーバスターズ事業でございますが、進入した竹による既存森林の破壊を防止し、放置竹林を適正な状態に誘導するため、不要竹の伐採を行う事業でございます。

最後に循環型の生産林整備事業でございますが、国補造林補助金とがんばる三重の林業創設事業補助金を受けた作業路開設事業で、実行経費から補助金を差し引いた額が実行経費の100%に満たない部分を町が補助をすることでございます。

以上、主要事業をご説明させていただきましたが、私は農林業が町の基幹産業ととらえつつ、今後ともその活性化を図るために全力を傾注してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願いをしまして、答弁といたします。

議長（大西慶治君） 前田正勝議員。

11番（前田正勝君） 事業については、それぞれたくさんあります。平成22年度予算でも当初予算で2億円近い金が予算化されておるんですが、またも

う一度県を出してきて、ちょっとどうかなと思うんですが、がんばる三重の創出事業とあるんですが、せんだって県のほうから三重の林業とかいう冊子を、冊子というのか広報紙を貰ったんですが、この宮川地域はどういうことをやっているかという話なんです、掲載されると思います。これは一部大台地域も入っておるんですが、林業事業体と連携して作業路の整備、あわせて間伐材等を搬出するような取り組みが行われていると知りました。私、大台地域のほうの人間ですので、山についてはまさに林業については素人ばいところもあるんですが、でも大事な資源であるということで、ちょっとこういう質問をさせていただいたわけなんです、この状況は今どのように進んでいるのか。

この事業では施業の集約化、作業路の整備、高性能林業機械の導入、施業プランナーの人材育成等、さまざまな施策が進められているようですが、私は作業路の整備については、進めていってもらいたいと思っております。高性能な機械でも道がなければ入れないわけなんで、またそうすることによって次世代に引き継ぐためにも必要だと思っております。

せんだってもちっと話があったんですが、私の区にも昭和30年代、その例の植林の時代なんやけど、みんなで植林した生産林があります。一時期、下刈りや間伐をしましたが、全く今は手つかずであります。我々の生きている間に、現状では恐らくメリットになるものは、受けることはできないと、今の現状ではそう思っております。

町長もご存じのように、山の資源の活用については、搬出のコストがネックになっていると。この冊子にも書いてあるんですが、私はまさにそうなんだろうと思います。先だっても宮川用水へ行って聞いたんですが、今は昔のように河川へ入る人が少なくなったということです。この地域における資源である木材について、以上のようなことも踏まえて、町長の所見を伺いたいと思います。先ほども言われたんですが、H型とかいう話で、そこら辺のコスト削減にむけての搬出の方法もあるが、またこれからその方向へいくんだと、伺いたいと思います。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） がんばる三重ということで、この平成21年度から取り組んでいるところなんです、これは以前、1戸当たり30万円の補助金を出すということで、新築木造補助金ですね、木造家屋の補助金です。これが4年続いてきたんですが、知事のほうとしては質の悪い補助金だと、いわゆる個人への補助金やというふうなことで、それよりももっと基盤的なのというようなところから、このがんばる三重という事業が出てきまして、作業路の開設なりあるいは間伐の推進と、そういったような形にシフトをしてきたようなことでございます。

そういうことで、今年も真手の地域で60ヘクタールほどの森林なんです、そういったところに作業路をつけたり、あるいは森林の先ほど申しあげましたH型の集材方法、これも導入しながら一度やってみようかというようなことで、また研究段階ではありますけれども、これをやっていこうということで考えているところです。通常この宮川地域や大台地域の中で、1日にですね、搬出できる方法が平均して2.6立米程度だと思います。四国の高知県にあります土佐れいほくという三セクがあるんですが、ここではH型の集材方法をとっておりまして、1日平均6.6立米出してきておる。多いときでは10立米出すというふうなことでございます。その元として作業路がきちんと開設をされているというふうなことでございます。これには3人で集材をやってくと。一人は集材機を扱い、一人はたまかけをやり、一人は土場で整理をします。当然機械化も進んでいるところであります。この尾根と尾根を結んで2本、ワイヤーを張りまして、その間にもう一つ通すんですが、その名前忘れちゃったんですが、その通った分が真ん中にキャリアがついておって、自在に動くですね。そのキャリアがまた動くもんですから、どこの地点でもひろえることができる。全管集材でできてくるということで、1回で6本か7本程度引き上げてやってくるということでありますが、それですと全然傷もつかないというふうなことでもございます。かなり効率的に行われております。

それで、そこも三セクなんですけど、15、6人の方が働いてみえまして、年の平均収入が470万円と、こういうようなことで非常に高い賃金を得ておるといふふうなことでございます。そういったような目指しながら、やっていく必要があるだろうということで、今後そういった作業路の開設、そういったものも進めていく必要があるだろうというふうに思っております。ただその四国のほうも非常に急峻なところでもございました。いろいろな技術的なこともあるだろうと思いますけども、この地域でも急峻なところはたくさんあるわけですし、やってやれないことはないとは思いますが、その作業道の開設ということで、非常に大事なことだなというふうに思っております。それにつれて機械も大型化をしております、プロセッサのようないろいろなものがあるわけなんですけど、かなり大きなもので集材作業が行われてきておるといふふうなことでございます。そういうことでそういう能力を高めるためのですね、研修なり研究というのは、今手がつけられておると、こういうようなことでございます。

そういうことで、将来ですね、皆伐するおりに、その作業道等が整備をされておりますと、非常にコストが安くなってくると、こういうようなことで、山元へ返るお金が非常に多くなってくる部分が、これ当然出てくるわけですので、そこら辺を目指しながらやっていかないかなということをおっしゃっているところでもございまして、さらに啓発を行っていかねばならないなと、当然森林組合にも大活躍はしていただかねばならんと、こう思っておりますので、よろしくお願いをいたしたいというふうに思います。

途中ですね、皆さんが植えられて保育もし、やってきたのが、木材価格が低下をしたというふうなことの中で、山に携わる人が少なくなっていく。そしてまた管理が覚束ないと、こういうことで放置林が徐々に多くなってきておると、こういうようなことでございますが、しかしせつかくの資源でもございます。そういうことでこれを何とか後世に残せれるような方法で、日々努力はしていかないかなと、こう思っておりますので、当然よろしくお願いをいたしたい

というふうに思います。

議長（大西慶治君） 前田正勝議員。

11番（前田正勝君） 木材の木材としての利用度について、少し町長に伺いたいと思うんですが、先だって私、地元の市場でちょっと見させてもらんですが、フォレストファイターズが出してきた木やという木で、随分置いてありました。これ売れていくんですかと聞いたら、随分今、積んであるんですが、全部売れていくという話なんです。ただ価格が先ほど言われたように、ものすごく安いと、私も少しトラックで丸太を運んだことがあるんですが、市場から。その当時と比べて、もう10数年前なんやけど、その当時と比べたら目茶苦茶な値段ですね。直径20センチぐらいの杉の木なんですが、これ間伐したやつやという話です。そのフォレストファイターズが切ってきたやつは。間伐材、それは私のこの意識の中にはこんな大きな木が間伐するなんて、地元の議員さんらはわかると思うんですが、私の頭の中にはなかったんです。「これ値段的にどうや」と言うたら、『立米1万1000円ぐらいで売れていくと。これは建築用材に使うのと違うんやぞ』という話なんです。そんな方向へいっているんですよ。木材の用途というのが。「どうするんや」と言ったら、これも全部チップ化して、地元の県内ではないんですわ、その業者は。県外、奈良の業者やと言ってましたわ、それでここまで買いに来るんやという話です。

既に多分町長先ほどもちらっと言われたんですが、木材はそれはもちろんええ木は恐らく建築材に使うんだらうと思うんですが、杉なんかのそれこそどんな木でもええんで、チップ化して、それをまた付加価値をつけてという、そういう需要の方向へ向かっていくのではないかと思うんですよ。そうなってくると、いろいろなところへ使えるもんで、それをまた付加価値つけて加工しているという話で、結構木材の需要はふえてくるんじゃないかと思うんです。

我々も木材っていうたら、建築材しかという話しか思ってなかった時代があったんですが、そんなんではどうもないらしいんです。聞くところによるとちょっとこの間の選挙の話を出して悪いんですが、自民党のローカルマニユフェ

ストの中に、すごい構想でそれをチップ化して万能化させて、中電へ石炭と混ぜて発電用に使うという話です。それを使いだすと、とてもやないけども、三重県の木なんて、あっという間になくなっていくという話なんです。そんな方向へいっておるようなことなんです。大きな企業が研究開発しておるという話です。

そういうことも考えて、ひょっとしたら林業について、先は少し明るさがあるんと違うかなと、これもまた我々の代までできる、恐らくできると思うんですわ。そんな時間のかかる話と違うと思う。そんなところも踏まえて町長、何かそういうところで情報あったら、ちょっとお教え願いたいと思います。

議長（大西慶治君） 町長。

町長（尾上武義君） この木材の利用というものが、非常に大事なときになってきているというふうに思っております。それがために我が町も公共施設はほとんど木造でやっておるということでもございますし、ごみの集積場もこれからもっと使いやすいような形で木材で何とかできないかなというようなことを考えているところなんです、より公共の部分からですね、木造、木材を使っていくという、そのことはやっていかならんかと、こう思っているところであります。

今三重県も県立博物館を整備することで進んでおりますが、その中で木材を使うのがわずか1000万円か、そんな程度やと思うんです。それはもう内装というふうなことで使われるようなんですが、1000万円やそこらの200億円ぐらいかかるような中で、1000万円やそこらのもんやと、もっと多く使っていただかないかなというふうに思ってるんで、今度その知事とのトップ会議があるんですけれども、その特に県産材の利用というふうなことで、もう少し申し上げようかなということをおっしゃるんですが、そういうようなことで、どんどんそれをまず高めやなあかんということがございます。

それと、今後やはりバイオマスも含めながら、中電のお話も出ましたんですが、碧南火力ですね、ここでは木材を使っているというふうなことでもござい

ます。その部分がお金の単価的な部分もあるだろうとは思いますが、どのように動いてくるかもわかりませんが、今後ですね、こちらのほうにその国産材というようなものを使うということになれば、それこそ本当に価格面もございませぬが、これ大台町だけで対応できるものでもございませぬ。三重県だけでもこれはいかんだらうと、本当に紀伊半島中で対応していかなならないことになるんかなというように思いますが、そういったようなものも、今後いろいろ出てくるんじゃないか。そしてまた町内の業者さんでもバイオマスの部分で、事業に取り組んでいるところもございませぬ。そういうことで、湯をあげてそのCO<sub>2</sub>の削減というふうな形に取り組んでいくようなことでもございませぬので、ある部分その需要は高まってくるだろうと思ひます。

ただ需要が高まって少しでもコストを下げていけるだけの基盤というものを整えておかねばならぬと、こういうことで林道、作業道、作業路、そういった路網の開設、このことが非常に重要になってくると思ひます。そしてまた高性能機械の導入ということもあわせてやっていく中で、基盤を整えてより安価に提供できる。そして山元にお金に戻る、そういうシステムを作り上げていく必要が今後出てくるわけでありませぬ。そのために今H型集材というようなことで申し上げているようなことでもございませぬが、それ以外にも高齢者の多いところでも、いろいろな道端林業と言ひませぬか、数本の木を出してきて、その部分がある意味、軽トラックに載せていっても、お金になってくると。多少のこづかい稼ぎになるというようなことにもつながっていければなというふうに思ひしているところでもございませぬ。

そういうことであれやこれやとあるわけなんですか、いろいろな国県の補助事業も使いながら対応してまいりたいと思ひますので、ひとつよろしくお願ひいたしたいと思ひます。

議長（大西慶治君） 前田正勝議員の一般質問が終了しました。しばらく休憩します。再開は10時45分とします。

(午前10時32分 休憩)

(午前10時45分 再開)

議長(大西慶治君) 休憩前に引き続き会議を開きます。